

薬師寺の調査（平城第457次）

薬師寺の東院堂（国宝、1285年創建）周辺に防災設備を設置するための幅約1.5m、延長50mにおよぶ逆L字形の調査区を設定しました。

薬師寺東院は吉備内親王が実母・元明天皇のために養老年間に創建したと言われています。東院堂は、南向きだったものを、1733年に現状のような西向きにしたという記録があり、さらに東院堂の柱間が天平尺を用いていることから、奈良時代に創建された御堂の礎石上に再建されたと考えられています。

そのような資料から、今回の調査は奈良時代創建の基壇跡を見つけるのが目的でした。そしてそれが見つかったのです。逆L字形の調査区で基壇西辺と南辺の凝灰岩製地覆石を発見しました。建物の西北隅部分にあたり、確認した基壇は東西8.2m、南北13.0mの規模があります。

基壇内部は砂礫や粘土が5～10cmごとに層をなして締め固められています。版築^{はんちく}という工法です。竊模様にみえるはずの版築ですが、ここでは各層同じような土質のせいか明瞭ではありません。版築の底部には、親指大の河原石を一部に敷き詰めていました。また、礎石を据え付けた痕跡を3ヶ所で確認し、礎石を安定させる根石もありました。礎石間の寸法は現東院堂を南向きにした場合とよく合います。

凝灰岩を用いた基壇と固い版築、丁寧な石敷きなどからみて、東院の創建時の中心建物でしょう。狙ってはいたものの、思いがけない発見ができました。

（都城発掘調査部 箱崎 和久）



版築と底部の敷石、礎石下の根石（西から）